

題 言

不景氣時代

徹底的に下り坂の不景氣も爰一年や二年では斷じて良くなならない。唯此際に人心の緊縮は最も必要である。事業界が振興するまでは研究の時代である。一木一石の仕事に對しても自己の職分を感じて研究的に進むべきである。

來るべき技術振興の時代に果して何人が、文化に寄與すべき實力を發揮するであらう。

工事中機械の規準案

國産品使用奨励の言は何の時代にも傾聴すべき事であつて、必ずしも現在にのみ必要な事ではない。我々工事關係者に於ては、工事の大小に關せず常に合理的施工を眼目として其計画を進めなければならぬ。工事中の主要なる機械材料の撰擇は、經驗ある公正の士でなくては容易に判斷し得ないのである。

然らば如何にして經濟的撰擇の標準を作り得べきか、是は要するに大なる問題であつて關係學會等に於て一大調査委員會を設け、急速に研究調査をなし、感狀と技術界の現狀に適應する或る暫定的な規準案を作成すべきものである。

此等の問題に觸れんが爲め各家の示教を乞ふて本號に掲載するの光榮を得た。何れも短文にして要を盡したものである。

敢て再讀を乞ふものである。

新人宮原氏の工事研究

現場工事が研究的に施工せらるゝ事は最近の一傾向として、寔に喜ぶべき現象である。

前號より本誌に混凝土記事を掲載しつゝある宮原氏の混凝土工事研究態度は實に眞剣そのものである。氏は東大工學部建築科出身にして目下日本銀行の工事を擔當し、從來未開の境地に新しい努力を捧げつゝある青年技師である。斯の如き新人が經驗に富んだ先輩の下に充分に働き得る事は氏一人の幸福のみではない、我等は我國工事技術界の爲に其大

成を望むものである。

愛宕隧道の新工法

都市内の街路隧道工事としては、先年横濱市の山手町に於て復興局が施工したものが最初であつた。今回東京市が施工した愛宕山隧道は、大き形状等に於て前者と相似たものであるが、其設計と工法に於ては大に異なるものがある。

愛宕隧道は混凝土捲立部分だけの横面を九區分し、先づ第一區劃の坑道を貫通して、之に混凝土を填充し完全に埋戻して次に第二の坑道を貫通して之に混凝土を填充し完全に埋戻して、然る後に第三坑道掘鑿に着手し、順次かくの如く坑道一本宛を埋戻して、遂に九本の坑道全部にて隧道の覆工だけを先に終り然る後に全坑内部の土砂を掘鑿したものである。

是に依る方法は東京地下鐵の須田町附近にも目下施工中であるが、愛宕隧道は一の坑道混凝土施工毎に、坑内面に接する型枠代りに混凝土ブロックを積み壁面を型造り、之にモルタルを塗り、其所に混凝土を填充したるもので、此場合に於ては最も成功した工法と云はねばならぬ。

愛宕隧道工事の成功

隧道工事に就ては全然素人である東京市土木局が、今回の愛宕隧道に成功したるは、其施工法の如何にも合理的であつて、少しも無理のない處にある。

唯此の工事に於て従業員一人の犠牲者を出したるは氣の毒の事である。工事請負者たる飛鳥組はすでに隧道工事には熟練の組であつて、細部の施工には夫々熟練の小頭を使用した事も成功の一因と思はれるが、全體の施工計劃の良つた事が何よりの成功原因である。

尙ほ愛宕隧道工事の特色と見るべきは、イランダーターを使用して混凝土の配合を確實になし、天井部分の仕上にモルタルを吹付けて表面を粗面となし、音響防止に意を用ひ、又は排水管及び排水溝を完備せる事等は都市隧道の根本問題として注目すべき事である。